

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較
総括判断	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	

（注）5年1月判断は、前回4年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、百貨店が持ち直しに向けた動きに一服感がみられるものの、スーパーが堅調なほか、観光等が持ち直していることから、全体としては緩やかに持ち直している。生産活動は、汎用・生産用機械が緩やかに持ち直しているものの、化学で持ち直しに向けたテンポが緩やかになっているほか、電気機械が足踏みの状況にあることから、全体としては横ばいの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較
個人消費	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	
生産活動	持ち直しのテンポが緩やかになっている	横ばいの状況にある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

設備投資	4年度は前年度を上回る見込み	4年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	4年度は減益見込み	4年度は増益見込み	
企業の景況感	現状判断は「下降」超	現状判断は「下降」超	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年度を下回っている	前年度を下回っている	

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

スーパーは、身の回り品に動きがみられるほか、飲食料品が堅調であることから、全体としては堅調となっている。コンビニエンスストアは、酒類を含む飲料品や米飯類等に動きがみられることから、全体としては緩やかに持ち直している。ドラッグストアは、飲食料品や衛生用品が順調であるほか、医薬品に動きがみられることから、全体としては順調となっている。家電大型専門店は、省エネ性能の高い冷蔵庫等に動きがみられるものの、テレビやDVDレコーダー等の動きが鈍いことから、全体としては弱含んでいる。ホームセンターは、園芸用品やペット用品等に動きがみられるものの、日用品等の動きが鈍いことから、全体としては弱含んでいる。百貨店は、身の回り品に動きがみられるものの、衣料品等に弱さがみられることから、全体としては持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。乗用車の新車登録・届出台数は、普通車、小型車、軽乗用車のいずれにおいても前年を上回っている。観光は、全国旅行支援の効果などにより持ち直している。国内旅行は、全国旅行支援の効果などにより持ち直しており、海外旅行は、水際対策の緩和により持ち直しの兆しがみられる。

(主なヒアリング結果)

- 外出機会の増加によって、バッグや靴などの動きがよかった。(スーパー)
- 節約志向の高まりから、値上がりした食用油や調味料などに買い控えの動きがみられるものの、揚げ物を中心とした総菜や冷凍食品の動きがよくなっている。(スーパー)
- サッカーワールドカップを自宅観戦する方が多かったこともあり、ビールやチューハイ等に動きがみられた。(コンビニエンスストア)
- 全国旅行支援などによる人流増加を背景に、来店客数が増加するなか、おにぎりやパン類、カウンターコーヒー等の売上が伸びている。(コンビニエンスストア)
- 品揃えを強化している冷凍食品等の売上が伸びている。(ドラッグストア)
- 引き続きマスクの売上が好調であるほか、感染拡大により咳止め薬や総合感冒薬、抗原検査キット等の売上が伸びている。(ドラッグストア)
- エネルギー価格の高騰により、省エネ性能の高い高付加価値商品の需要が高まっている。(家電大型専門店)
- インターネットで各種コンテンツを視聴する顧客層の拡大などによって、テレビやDVDレコーダーの動きが鈍くなっている。(家電大型専門店)
- コロナ禍で外出できなかった時期に、ガーデニングを始めた方やペットを飼い始めた方が多く、ガーデニング用品やペット用品の需要が定着している。(ホームセンター)
- 日用品は、スーパーやドラッグストアなど他業態との競合が激しく売上が減少している。(ホームセンター)
- 外出需要の高まりによって旅行鞆等は好調であるものの、感染の拡大を懸念したシニア層の来店数が減少したことから、衣料品の売上が減少している。(百貨店)
- 受注は比較的好調に推移しており、消費者物価の上昇の影響による買い控えは今のところみられていない。(乗用車)
- 半導体不足や部品調達難の影響の緩和により、長期の納車待ちが少しずつ解消されつつある。(乗用車)
- 全国旅行支援の効果もあり、観光客数はコロナ前の水準に近づいている。また、国際線の再開などによって外国人観光客も少しずつ増加している。(観光)
- 行動制限がないことや全国旅行支援によって、東京、北海道、沖縄、テーマパークなど遠方への旅行者が増加している。(旅行)

■ 生産活動 「横ばいの状況にある」

汎用・生産用機械は、設備投資関連の堅調な需要を背景に、緩やかに持ち直している。化学は、医薬品に動きがみられるものの、一部に受注の減少がみられることから、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。電気機械は、電子部品需要に弱い動きがみられることから、足踏みの状況にある。こうしたことから、全体としては横ばいの状況にある。

- 建設工事向けの需要は順調であり、引き続き高操業となっている。(汎用・生産用機械)
- 半導体不足による自動車生産の落ち込みの影響などにより、生産量が減少している。(化学)
- 中国経済の減速から、スマートフォンや家電向け電子部品の生産量が減少している。(電気機械)

■ **雇用情勢** 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は上昇している。新規求人数は前年を上回っている。

- スーパーマーケットなどの食品関係の事業所を中心に、小売業で求人数が増加している。(労働局)
- 引き続き総菜や冷凍食品などの需要が高いことから、食料品製造業で求人数が増加している。(労働局)
- 全国旅行支援やイベントの効果などから、利用客数が増加しており、人手が不足している。(宿泊業)
- イベント警備の仕事が増加しているものの、人手が不足しており全てを受注するのは難しい状況である。(サービス業)

■ **設備投資** 「4年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10-12月期

- 製造業及び非製造業で前年度を上回る見込みとなっており、全体としても前年度を上回る見込みとなっている。

■ **企業収益** 「4年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10-12月期

- 製造業及び非製造業で増益見込みとなっており、全体としても増益見込みとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数で見ると、分譲は前年を上回っているものの、持家及び貸家は前年を下回っており、全体としても前年を下回っている。

- 資材価格の高騰による住宅価格上昇の影響から、住宅購入に向けたマインドが低下している。(建設業)

■ **公共事業** 「前年度を下回っている」

- 前払金保証請負金額で見ると、市町村は前年度を上回っているものの、国、独立行政法人等及び県は前年度を下回っており、全体としても前年度を下回っている。

3. 各県の総括判断

	前回 (4年10月判断)	今回 (5年1月判断)	前回比較	総括判断の要点
香川県	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、横ばいの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
徳島県	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
愛媛県	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、横ばいの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
高知県	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している		個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。